

# アメリカン・ボード宣教師文書

—同志社女学校女性宣教師を中心として—

〈スタークウェザー書簡一訳および註一〉(6)

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 坂 | 本 | 清 | 音 | 監 |
| 松 | 波 | 満 | 江 |   |
| 小 | 島 | 紀 | 子 |   |
| 矢 | 吹 | 世 | 紀 | 代 |
| 吉 | 岡 | 弘 | 子 |   |
| 柿 | 本 | 真 | 代 |   |
| 大 | 熊 | 文 | 子 |   |

## 書簡翻訳続き

《355》【松波満江 訳】

マサチューセッツ州ボストンにて、1879年7月31日、アリス・J・スタークウェザー宛

拝復

5月22日付の手紙は滞りなく届き、興味深く読ませてもらいました。他にも手紙を出す相手は多いだろうし、仕事を手一杯抱えているだろうに、詳しい手紙を送ってくれてありがとう。私からステーションの他のメンバーに宛てた手紙には目を通しておられると思うので、これまでは個人的にあなた宛の書簡を書くには及ばないと考えていました。

人手不足を日本人教師<sup>1</sup>の起用で上手に補っていると知って嬉しく思います。同僚として、学校に直接関わる仕事や責任を分け合う女性宣教師が一人もい

ないことをお気の毒に思いますが、ラーネッド夫人が気持ちよく手伝って下さり、あなたの頑張りで学校もうまくいっていると聞いて喜んでいます。ゴードン宣教師の京都入りが許可された<sup>2</sup>からには、同様の許可がパーミリーさんや他の女性宣教師にもやがて下りるでしょう。どんな状態になっても、あなたの仕事の成功に関しては、本国の皆が温かい関心と共感を持っていますので、ご安心下さい。

敬具

N. G. クラーク

追伸：デイヴィス宣教師に、卒業生<sup>3</sup>の英語エッセイを送ってくれてありがとうと伝えてください。エッセイは素晴らしい出来ですし、卒業生は希望の星です。

- 1 宮川経輝、加藤勇次郎のこと。
- 2 M. L. ゴードン【*Asphodel* 46, p.167 参照】の同志社への雇入願と寄留免状下渡願は1878年10月30日に京都府に提出されたが差し戻され、再申請も却下。新島の奔走の結果、ようやく許可が下りたのは、1879年6月26日であった。
- 3 J. D. デイヴィス【*Asphodel* 45, p.296 参照】は、1879年6月13日付クラーク宛書簡で、同志社英学校第1回卒業生の山崎為徳と伊勢時雄の英語演説の写しを送ると書いている。しかし、同志社大学図書館所蔵のアメリカン・ボード宣教師文書 (Papers of the American Board of Commissioners for Foreign Missions) マイクロフィルム Reel 327, No.104に残るデイヴィス書簡に見られるのは、山崎の“Scientific Education in Japan”だけである。

〈86〉【小島紀子 訳】

日本の京都にて、1879年12月6日、[ウーマンズ・ボードの] 友人たち宛  
拝啓

今日安中教会<sup>1</sup>で、海老名氏は牧師になるための尋問を受けました。その教会は大いに興味を引く教会で、40名の信者がおります。私たちは明日の安息日のことに思いを馳せています。新島氏、デフォレスト氏<sup>2</sup>、アッキンソ

ン氏<sup>3</sup>がその地へ行っておられます。牧師に選ばれたのは、今年6月に英学校を卒業した15名の中の1人で、とても興味深い説教をする人です。海老名氏は真の神を知っており、しっかりと心で感じ取っています。彼の悩みの種は眼病なのですが、目を患っていることは自分にとっては大いなる恵みで、そのお蔭でキリストと深く交わることができると話しています。そのような考えを聞くのは、とても感動的です。クラスの中の5名<sup>4</sup>が、神から託された才能を活かして京都の2つの学校で働いています。これまでにこれ程深遠で完璧な仕事が行われつつあると感じたことはありません。

府民全体に「この道」[キリスト教の道]の教えを伝える者に近づかないようにとの口頭での布告が知事<sup>5</sup>から出され、自分の力で考えることに慣れていない多くの人々を遠ざける結果になっていることは間違いありません。でもそのおかげで、新島氏と学校とキリスト教を宣伝することにもなっているのです。

英語だけでも、キリスト教の光へと導く有力な道具になるかに注目すると、大変興味深く思えます。内陸部の奥地から青年が2人来ていますが、彼らは日本人から英語を教わりました。その日本人教師の一人はアメリカを2回訪問しており、キリスト教の存在について青年たちに話しました。しかも、キリスト教はいい教えであり、イエス・キリストは、彼らが学んでいるナポレオンより素晴らしく、傑出した人物だと。この青年たちは神戸で福音の教えを聞き、信者になったのです。

教師の1人は、神について十分に確信するだけの話を聞く前に亡くなってしまいましたが、生徒たちは先生の母親が洗礼を受けたのを見てよかった、と思いました。もう1人の教師は、自分の先生たちが信者になるのを期待して手紙のやりとりを続けていますが、先生というものは高い地位についてるので、大きな誘惑を経験することがよくあるようです。

神戸の学校から転校してきた生徒の場合は大変興味深いケースですので、私たちの祈りの対象です。彼女は神戸で洗礼を受けました。父親は聖書につ

いてはほとんど知らず、信仰告白もしていなかったのですが、宣教師の手伝いは沢山していました。しかし、どういうわけかキリスト教に嫌気がさしてしまい、娘を神戸の学校から退学させ、ここ京都の、大きくて立派な異教の公立学校<sup>6</sup>へ入れたのです。彼は娘に手紙を書いて説教を聞きに行かないようにと厳命し、先生たちにもそのように懇請しました。ところが、先生たちの言葉は私たちにそれほど強く反対するものではなかったことは驚きでした。先生は「[キリストの道は]「いい道」だが、今は公立の学校にいるのだから、そして公立の学校はキリスト教を認めていないのだから、説教を聞きに行かないでくれるほうが学校には有難いのだが、と彼女に言ったのです。その女生徒のためにお祈りをしようと思つたのが一つになりました。私たちの学校の寄宿生の1人とその女生徒は神戸で知り合っていたのですが、最近彼女から是非会いに来てほしいと急かすハガキを受け取りました。可哀想にその女生徒は、まるで狼の群れの中にいる子羊のようで、まわりがすべて信仰を曇らせようとしているのです！私は女生徒たちと話すいいチャンスと思つて、いづれ信仰を持ちこたえる必要が迫られる厳しい誘惑に出会うことを、彼女たちの心に強く刻みこむように努力しました。

全員がまた試験準備で忙しくなっています。終わったら、多くの生徒が故郷へ帰るでしょう。試験の後、ちょっとしたクリスマスの祝会を持つ予定です。東京でクリスマスの祝祭を見てきた日本人は、それが自分たちの異教の祭典にととても似ているように思えたので、ここでの祝会はお祭り騒ぎというよりも、幸せな気分のもので、クリスマスの厳粛な部分を印象づけるようにしてほしいと、声を揃えて頼むのです。そして、「どうか女生徒たちがクリスマスに関しての聖なる思いと、その深く尊い意味を理解するのを助けてください」と言います。

敬具

アリス・J・スタークウェザー

- 1 安中教会の創立は1878年3月30日で、新島襄によって洗礼を授けられた30名の会員をもって、海老名弾正を仮牧師として始まった。1879年、同志社英学校を卒業し、按手札を受けた海老名が正式に牧師として就任した。
- 2 John K. H. DeForest (1844-1911) アメリカン・ボード宣教師。1874年来日。大阪で伝道。のち仙台の東華学校の創立に尽力、東北地方に伝道した。
- 3 John L. Atkinson (1842-1908) アメリカン・ボード宣教師。1873年来日。兵庫教会の創設に尽力し、三田、岡山、松山、今治など西日本での伝道にあたった。グリーンとデイヴィス両宣教師が神戸を去ったあと、同地方のミッションの責任者となった。
- 4 第1回卒業生の内、山崎為徳・市原盛宏・森田久萬人は同志社英学校に、宮川経輝・加藤勇次郎は同志社女学校に教師として就任した。
- 5 榎村正直 (1834-96) 第2代京都府知事 (在任1875年7月~1881年1月)。知事就任前は、京都の近代化政策を進め、同志社にも協力的であった。やがて極めて専制的な府政を行い、同志社に対しても、特に外国人教師雇入れ許可証発行に関しては、執拗な邪魔立てをした。
- 6 1872年創立の新英学校及女紅場のこと。2年後の1874年に英女学校及女紅場と改称、1876年には学科再編成をして、京都女学校及女紅場と改称した。

### 《636》【矢吹世紀代 訳】

スタークウェザー宛

拝復

今回、京都ステーションの支援は、「新島氏との特別な取り決め」<sup>1</sup>によって扱われるとなったことに関連して、カリフォルニアのウーマンズ・ボードの女性たちとあなたの関係がどうなるのかと気にしておられることでしょう。私の考えは、今のところはカリフォルニアのボードとあなたとの関係は断たないで、これまで通りに文通をし、私たちの仕事に関心を持ち続けて貰うのがいいということです。これまで通りに、あなたの仕事のために彼女たちが出してくれていた金額を、直接アメリカン・ボードの一般会計に寄付して貰えればよいのです。

それは形式上の違いだけのことから、ウーマンズ・ボードの方たちには、寄付のお礼の意味もこめて、あなたからの便りが届きさえすればいいの

です。これまでも寄付金はボードに送られており、かつその支援金は直接あなたのために使われていると意識して貰っていたのですから。これからも同額の寄付をして大義のために捧げていると感じて下さればいいのです。実際、これまでと変わらず大義のための助けとなっているのですから。どうか支援者の方たちとの文通を続けて下さい。この件に関しては、彼女たちと同様、あなたも十分に納得して頂けると思います。

京都での仕事に関して、また生徒の特徴や活躍ぶりに関して、直接あなたから便りをもらえれば、大きな喜びとなります。あなたの筆によるものは何でも大歓迎で、それはあなたのこととして、ずっとこちらの共感と関心を引くのです。言うまでもないことですが、京都にいるあなたや他の宣教師の方々のことをたびたび思い起こしています。あなた方の京都での働きは全ミッションの中でも核であり重要なものです。ひとつ残念なことは、京都ステーションの中には外からの批判に翻弄される人たちがいることです。この件に関しては、これまでも、かなりはっきりと書いて来ましたが、ステーションの仲間が再びあなたに嫌な思いをさせないように、よくよく考えてもらいたいです。

敬具

N. G. クラーク

- 1 同志社は開校4年目に廃校の危機に直面した。「名目上同志社は日本人新島襄が外国人教師の雇用者になっているが、実際はその逆であって、外国人の資金で運用されている学校」であると政府が指摘、攻撃してきたからである。その批判に反駁するためには、学校のために恒久的な基本金の確保が必須であるとの森有礼氏の助言をもとに、新島はアメリカン・ボード（ハーディ氏）に援助を強く訴えた。それに対して、ちょうどこの時期にアメリカン・ボードに遺贈されたオーティス基金の内から、同志社の維持資金として毎年8000ドルを寄付することが約束された。これを「新島氏との特別な取り決め」と表現したのである。

## 〈87〉【吉岡弘子 訳】

日本の京都にて、1880年3月26日、チャイルド宛

拝啓

学校は今日の昼に終わり、1週間の休みに入りました。女生徒たちも含めて全員が疲れていますが、前学期の生徒たちの試験は大変満足いくものであり、彼女たちの勤勉さの証となっています。学期の終わりに生徒一人ひとりが、日本語と英語による勉強が共に上達したことを示す証明書を受け取りました。女生徒たちはとても嬉しそうに証明書を家に持って帰ったり、送ったりしています。アメリカでの卒業証書と同じように、証明書には学校印が押し、かつての私たち同様に、女生徒たちも証明書をとても誇らしく思っているようです。

聖書の試験は細かいところまで行き届き大変興味深いものでした。よい地理書の翻訳が今は手に入るようになり、生徒たちがそこから詳しい知識を得ているのは大変嬉しいことです。文部省で発行されたよい地図がありますので、彼女たちは地図上で世界中を旅し、訪れた国々についての知識をとことん得ています。私が教えている第5読本<sup>1</sup>構文分析のクラスも大変よく頑張りました。これからは生徒が翻訳をし、新聞に記事を投稿できるようになると期待しています。そうすれば、生徒自身が、長く忍耐のいる勉強の末には、いいこともあるのだと実感し始めるでしょう。作文は特に立派でした。

一人一人が前に出て、習字の手本にある大きな字を書きます。生徒たちはよく訓練されて慣れていますが、同じことを言われたら、私たちは混乱してしまうでしょう。大きな筆で、難しい筆使いをいとも簡単に行います。立派な完成品を展示すると、大変すばらしいものとなりました。作品は売るように勧め、伝道のための資金作りが出来たらいいのと思います。生徒たちは着々と成長していると、全員が感じています。本人たちの信仰の基礎を築くために教えねばならないことが沢山ありますので、慈善心を呼び覚ますことはまだ少ししか出来ていません。いずれこの点においても十分に教育がな

されると信じています。

どうか落胆しないでください。あなた方が私たちのために捧げて下さる熱心な祈りは、こちらでも感じられ直接の恵みをもたらしてくれていることは知っておいてください。私自身が暗い思いをしているときにそのことを疑ったこともありましたが、今はよく分かっています。ここ数か月の間には、その確信が必要な時が何度かありました。しかし、この前の手紙で、その時々本国の40名の献身的な姉妹たちが、私たち一人ひとりの名前を挙げて祈ってくださったことを知りました。祈りの翼は手紙より早く天駆けるのです。そして、私たちは祈りの神秘的な力を感じ取り、人の手になるメッセージが届くより前に、元気づけられ安心させられていることに驚くのです。あなた方の祈りと愛の業に対して、神様が祝福で皆さまに報いて下さいますように。拝受したクリスマス・カードは、父なる神の愛し子たちが常に示してくれる無限の愛の素晴らしい証です。

女生徒たちは、日本語でも英語でも手に入る良書はすべて読みたいと願っています。4年前に来日したばかりの頃には、良書は何もないように思われました。今もまだ限りはありますが、最近机の上には『天路歷程』<sup>2</sup>の翻訳本が置かれていますし、神戸のギュリック氏が発行しているミッションの新聞<sup>3</sup>の製本したものや、横浜の日曜学校の雑誌『喜ばしき音』<sup>4</sup>、そして東京の学生が翻訳した有益な物語が、大いなる楽しみを与えてくれています。まもなくイソップ物語も手に入る予定です。以前に出版されたものとしては、『キリストの生涯』<sup>5</sup>、『旧約聖書物語』の他に、たくさんのトラクトもあります。本国から届いた美しいスクラップ・ブックも机の上であり、本の周りに集まっている楽しそうなグループ、またオルガンを囲んでいる別のグループなどの光景を目にすると、きっと私同様に、あなたがたも喜んで下さることでしょう。このような光景は、キリスト教主義寄宿学校という私の理想をかなえる助けとなっています。

ご親切にも雑誌や絵本、また心を込めて作ったスクラップ・ブックを送っ

てくださった方々お一人お一人に礼状をお出しすることはできていません。どうか、『女性のための生命と光』を通して、送ってくださったものは全て受け取ったこと<sup>6</sup>、そして毎日それを使って熱心に勉強していることを伝えて下さいますように。それが皆様にお伝えできる最も確実な方法であると思います。お送り頂いたものは、愛情をこめて作って下さった方のお気持ち通りに、よい働きをしてくれています。お一人お一人に心をこめてお礼状を書くことができればと願いますが、到底出来ません。もし若い友人たちが、これからも続けて日々愛情深い祈りを続けてくださるなら、確実に私たちは楽しみと同時に祝福も得ることとなるでしょう。

敬具

アリス・J・スタークウェザー

5人の貴い女生徒たちが洗礼を受けてから3週間たちます。彼女たちのことはいつも私の心にありますし、いずれもっと詳しくお手紙で書くつもりです。どうぞ、その5人のためにお祈りください。

- 1 1880年6月の学科課程表では、モツゴフィ第1読本から第5読本までが記載されている。第5読本(McGuffey's Eclectic Fifth Reader)は英書科2年の第2・3学期、及び3年の第1学期の教科書として挙げられている。これらの読本は、William H. McGuffey 編纂の McGuffey's Eclectic Readers という教育用シリーズである。
- 2 イギリスのピューリタン作家 John Bunyan の作品、*The Pilgrim's Progress* の翻訳。日本では漢訳名『天路歷程』がそのまま使われ、1879年8月に東京の十字屋書舗より出版された。
- 3 『七一雑報』スタークウェザー書簡〈77〉註5【*Asphodel* 46, p.159】参照。
- 4 『喜ばしき音』<sup>おとずれ</sup>と題して、横浜の共立女学校教師マクニールが児童のために平易にキリスト教を説明したもので、1876年創刊。
- 5 J. D. デイヴィス著『絵入耶蘇基督一代記』(神戸：福音舎刊、1879)と考えられる。
- 6 1879年7月号の *Life and Light for Woman* (『女性のための生命と光』)に、スタークウェザーによる書物不足を訴える【*Asphodel* 46, p.194参照】手紙(1879

年3月18日付)が掲載されたのを受けて、次々に雑誌、絵本、スクラップ・ブックが送られてきた。それらに感謝の気持ちを表すこの文面は、1880年8月号の *Life and Light* に“Letters from Miss Starkweather”として転載されている。

《459》【柿本真代 訳】

マサチューセッツ州ボストンにて、1880年11月19日、アリス・J・スタークウェザー宛

(親展)

拝復

あなたが仕事を進める中で直面している試練について、詳しく綴られたお手紙を大変興味深く拝読し、また心から同情しました。そのような困難な状況にあるとは、今まで気づきませんでした。気がかりがあるということは聞いていましたが、その時に持ちあがった問題点は本質的なものではなかったと、後になって知りました。実際には、これまで以上に深刻で、大変困難な試練にあなたは行き当たっていたのですね。遠く離れたこの地からでは、あなたにとって役に立つ実際的なアドバイスをするのはとても難しいですが、ステーションの仲間とは、どんどん話し合ってください。彼らは、思慮分別に富む人たちですし、こういった場合には、役に立つ意見が言えるのは彼らだけでしょうから。また、相談することで、あなたのつらさも和らぐことかと思えます。

あなたが詳しく書いてくれた状況については、特に驚きはしませんでした。私たちのようにキリスト教文化に触れる機会のない異教の国で、人々がキリスト教の特性に欠けるのは仕方がないことだと思います。なぜならば、そのような特性はクリスチャンとしての成長や経験によって育まれる果実だからです。

私が唯一考えうるのは、ステーションのアドバイスを受けて、あなた自身の手で、これまで以上に学校を管理してゆくべきであり、誰であれ日本人女

性を責任ある立場に置かないこと、ということです。新島夫人<sup>1</sup>には、学校に関わらせるよりも、できれば、何か別の仕事を見つけてあげなさい。彼女にクリスチャンとして有益に働いてもらう何かよい方法を、あなたなら考えられるでしょう。そうすれば、彼女はそちらの仕事に興味に向いて、学校本来の運営を、あなたに委ねるのではないですか。

たとえ善意であれ、この夫人の影響力が、あなたの周りのクリスチャン仲間だけでなく、彼女の夫<sup>2</sup>に及ぶのではないかと心配せずにはいられません。新島氏には特別な信頼があり、多くの事を任しているのです、なおさらです。彼は謙虚な心の持ち主であり、これほどの信頼と責任に耐えうる日本人は、他にはほとんどいません。しかし、常に好ましくない影響下にあれば、どんなに立派な人でも悪影響を受けるかも知れません。新島氏に託された大きな信頼に応えるには、友人たちの祈りや共感が必要です。皆の喜びになるように、彼がその信託に応えてくれることを願って止みません。

ここ数カ月の間、こちらで仕事をしながら、これまで以上に実感しているのは、敵 [サタン] はあらゆる点で油断のならない活発なもので、善良な人同士の不和を掻き立て、行くべき道を阻んでくる、ということです。私たちの経験では意外なことです、敵のたくらみに気づいていないわけではないですし、敵 [サタン] については、十二分に学ぶ機会を現在持っているのです。しかし、「[恐れてはならない。] わたしたちと共にいる者の方が、彼らと共にいる者よりも多い」<sup>3</sup>のです。たとえ過酷な試練や対立を経験しようとも、神の大義は前進するのです。

敬具

N. G. クラーク

追伸

もちろん、あなたは辛抱強く思いやりをもって新島夫人と関わってゆくべきです。そして、夫人も私たちが共に、一日も早く広めたいと願っている神の大義のために、彼女がクリスチャンとして成長し、よい影響を与えてくれ

るのを期待しましょう。主の霊は、すべてを成し遂げられるはずですよ。

- 1 新島八重 (1845-1932) は、女学校の舎監をしていた母・山本佐久と共同して、寮生活の管理をめぐって口出しをするようになった。その意見はスタークウェザーら女性宣教師の良しとする考えと対立するものであったので、両者の関係は次第に悪化した。詳しくは、坂本清音「同志社女学校初代婦人宣教師A・J・スタークウェザーの苦闘」同志社人文科学研究所編『来日アメリカ宣教師』(現代史出版、1999) 303-326頁を参照。
- 2 新島襄 (1843-1890) のこと。この手紙の筆者であるクラークと新島襄は、親しい友人関係であったことから、八重の悪い影響が、襄に及ぶことを殊更案じていたと考えられる。
- 3 旧約聖書「列王記」下、第6章16節。

#### 《245》【大熊文子 訳】

マサチューセッツ州ボストンにて、1881年4月28日、アリス・J・スタークウェザー宛

拝復

この前の手紙で、京都で必要なオルガンの要求は、ミッションを通して正式に行うようにと示唆しました。しかしその後、私が自費で楽器を送ったとしても、ミッションもそのほかの誰からも反対を受ける筈はないと判断しましたので、メイソン&ハムリン社<sup>1</sup>製のオルガン1台を発注し、そちらに送ってもらうようにしました。オルガンはきっと、あなたのお仕事に役立つだろうと思いますし、あなたの幸せと成功を願う私の個人的な思いの表れとご理解下さい。少し前に説教を頼まれた時の謝儀を喜んで大義のために支出します。

あなたの働きを最高なものにするために本当に必要なものは何でも、きちんと手続きを踏んでミッションに提示し、見積もりを添えて送って欲しいのです。私は先日の手紙で、そのことに関して、検討してほしい意見をいくつか書きました。知っての通り、支出については慎重でなければなりません。

そして基金の使い道に関しては、どのような質問に対しても、満足のいく答えが出来なければならないのです。

パーミリーさんにもよろしく。

敬具

N. G. クラーク

- 1 Mason & Hamlin 社は、1854年に Henry Mason と Emmons Hamlin によって、ボストンで設立された。当初はオルガンの製作から入り、リードオルガンを作っていた。1883年、ピアノ製作を開始。